

東日本大震災の被災地における 震災語り部・被災地ガイドの年代・性別・空間分布 Age, Gender and Activity Area in 2020 of Kataribe and Field Guide in the Areas Affected by the 2011 Great East Japan Earthquake Disaster

○佐藤 翔輔¹
Shosuke SATO¹

¹ 東北大学 災害科学国際研究所

International Research Institute of Disaster Science Tohoku University

This paper reports on the current situation of kataribe (disaster story teller) and field Guide Groups in the Areas Affected by the 2011 Great East Japan Earthquake Disaster based on analysis of newspaper article and web information. The results are summarized as follows. 1) There is the generation valley between young players and middle-aged and older players in kataribe and guides. 2) 60s-70s in male persons and 20s and 60s in female persons are more many than others. 3) There are many kataribe and guide groups in Kesenuma, Minamisanriku, Ishinomaki, Higashimatsushima, Sendai and Natori but are few in other affected areas.

Keywords : disaster experience, disaster tradition, disaster story telling, kataribe, field guide, the 2011 Great East Japan Earthquake, personnel training

1. はじめに

2011年東日本大震災の被災地では、語り部（震災語り部）や被災地ガイドと呼ばれるヒトによる口承が盛んに行われている¹⁾。沿岸部は津波によって、多くの構造部が流失、損壊し、その後のガレキ撤去により、多く場所が更地となった。展示施設などの建物の伝承拠点よりも、口承によって震災の体験・状況を伝える活動が活発化した背景には、以上のような要因が存在していることが考えられる。

このような口頭による継承を行う行為は、効果的な災害伝承の手段の一つであると言える²⁾。人間の思考形式や認知作用には、論理・実証モード（Paradigmatic Mode）とストーリーモード（Narrative Mode）の2種類があるという^{3)・4)}。論理・実証モードは、「ある物事が正しいのか、間違っているのか」を問い、厳密な分析を通して、物事の真偽を明らかにしようとする思考の形式である。ストーリーモードは、「ある出来事と出来事とのあいだに、どのような意味のつながりがあるのか」を注視する思考の形式である。人間による記憶が理解を促進する上で、物語（ストーリー）が有効であることが明らかにされている^{5)・6)}。前述した、語り部と呼ばれる体験者による「語り」は、ストーリーモードの伝達手段であり、情報の受け手にとって理解しやすいものであると位置づけられる。また、著者らは、震災を体験した当事者による生の語りのほかに、体験した本人とは異なる人物、本人の語りの映像、その音声、その文字を再生媒体とする比較実験を行ったところ、実験参加者の8ヶ月後の記憶量について、語り部本人からの生語りを聞いた実験参加者の再生量と正確性は、他の媒体に比べて著しく高いことが明らかにしている⁷⁾。

震災の語り部や被災地ガイドの実態については、その内容や利用者数などの把握が行われている^{8)・9)}。その一方で、彼ら・彼女らどんな人が、どこで、などのパー

ソナリティといった個人個人について被災地全体の傾向は捉えられていない。一方で、震災語り部や被災地ガイド個人個人のデータベースは存在せず、様々な定義や活動が存在するために、実質的にすべての語り手の存在を把握することは不可能である。著者は、東日本大震災の被災地を対象にして、震災語り部や被災地ガイドの個人属性の調査を試みているが、東北地方のブロック紙1社の紙面に掲載された語り部やガイドを対象にしていることにとどまっている¹⁰⁾。本稿は、その調査対象を全国紙に拡大し、より実態に近いデータを生成し、年代・性別・活動場所の推定することを目的とする。震災の語り部や被災地ガイド個人そのものに着目し、執筆時点における現状把握を試み、特徴・課題について論じてみたい。

2. 方法

震災の語り部や被災地ガイドの個人属性の実態を把握するために、ウェブを情報源とする情報収集と、それにもとづくデータベース作成、その集計・分析を行った。

震災語り部や被災地ガイドの個人（だれが）を調べるために、KD 河北新報データベース（河北新報）¹¹⁾、聞蔵 II ビジュアル for Libraries（朝日新聞）¹²⁾、ヨミダス歴史館（読売新聞）¹³⁾、毎索（毎日新聞）¹⁴⁾、日経テレコン 21（日本経済新聞）¹⁵⁾の5紙（5社）といった新聞のデータベースを用いて「語り部」「ガイド」をOR検索した新聞記事データベースを作成する。以上の新聞データベースは、著者らの研究環境でオンラインデータベースとして閲覧可能な全国紙と地方紙である。河北新報は、宮城県ほか、東北6県の話題もカバーしている。そこから、1件ずつ判読し、紙面中の人物が震災の語り部でない人物である記事、被災地のガイドではない人物である記事、震災語り部や被災地ガイドであっても、東日本大震災ではない場合の記事（例：2008年岩手・宮城内陸地震、1983年日本海中部地震）を除く。その結果、

2011年3月～2019年3月までで1,418件の記事となった。

次に、以上の新聞記事データベースを、人物名で正規化する。正規化したデータテーブルに、性別、年齢（記事中に記載）、年齢（2019年4月1日時点、推定）、年齢（震災発生当時、推定）、被災当時の場所（都道府県・市町村）、掲載時点の活動場所（都道府県・市町村）といった属性を付与した。

団体については、筆者がこれまで記録してきた団体データベース（<https://sites.google.com/site/dccressato/#a15>）から、語り部やガイドを東日本大震災の被災地で行っている団体に絞ったデータベースを作成し、活動場所（都道府県、市町村）と利用料（最小、最大）を調査し、データテーブルに付与した。

3. 結果

図1に、震災語り部・被災地ガイドの年代分布を示す。図中の白棒は、震災当時（被災当時）の年代で、黒棒は2020年4月現在の年代である。いずれも記事に掲載されていた年齢をもとに、紙面掲載時期から加減算をして推定した値である。なお、一部の人物については、筆者が実年齢を把握しており、その場合は実年齢を登録している。

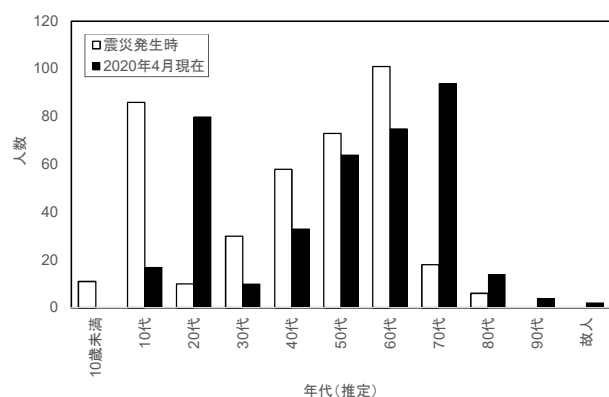


図1 震災語り部・被災地ガイドの年代分布
(震災当時と2020年4月現在、いずれも推定)

図1を見ると、2020年4月現在は50～70代が、震災当時は40～60代が多いことが分かる。これは、震災体験として伝えられているのが、震災発生当時40～60代だった人たちの経験が中心になっていることを表す。他方で、震災当時は10代、2020年4月現在は20代が多いことが分かる。他の被災地と直接的な比較はないが、東日本大震災の被災地では中年のほか、若い世代でも語り部・ガイド活動が行われているのは大きな特徴である。それとは反対に、2020年4月は30代と40代に、震災当時は20代と30代に谷間（世代の谷間）が存在しており、この世代だった人達の経験があまり伝えられていないことが分かる。このような実態は、阪神・淡路大震災で語り手の高齢化が進行している状況¹⁷⁾とは、大きく異なっている。宮城県東松島市では、当時小学6年生が2015年に活動を開始した東松島市学生震災ガイド TTT (TSUNAGU Teenager Tourguide of Higashimatsushima)¹⁸⁾ や、3.11 メモリアルネットワークが主催する「若者トーク」¹⁹⁾ によって、10～20代で被災を経験した人が語り合う場を設けているなどの影響があると考えられる。

なお、うち2名は執筆時点で死亡していることが分かっている（図中：故人）。体験者による語りは、体験者の命の限り、もしくはそれよりも早い時期に終焉せざるを得ない。1933年昭和三陸地震津波と東日本大震災を経験し、紙芝居「つなみ」の作者で、語り部活動されていた岩手県宮古市田老出身の田畑ヨシ氏は、2018年2月に93歳で亡くなっている²⁰⁾。災害伝承とは異なるが、戦争・空襲体験の語り部活動の中には、自身の体調を踏まえて自主的に引退する事例²¹⁾も見られる。

表1 震災語り部・被災地ガイドの年代・性別分布
(2020年4月現在、推定)

年代	男性	女性	計
10代	3	14	17
	1.6%	6.7%	4.3%
20代	18	62	80
	9.8%	29.5%	20.4%
30代	7	3	10
	3.8%	1.4%	2.5%
40代	13	20	33
	7.1%	9.5%	8.4%
50代	28	36	64
	15.3%	17.1%	16.3%
60代	43	32	75
	23.5%	15.2%	19.1%
70代	63	31	94
	34.4%	14.8%	23.9%
80代	8	6	14
	4.4%	2.9%	3.6%
90代	0	4	4
	0.0%	1.9%	1.0%
故人	0	2	2
	0.0%	1.0%	0.9%
計	183	210	393
	100%	100%	100%

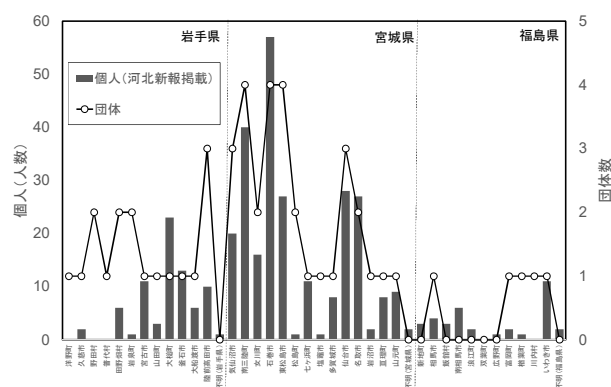


図2 震災語り部・被災地ガイドの空間分布

表1に、震災語り部・被災地ガイドの年代を性別に分けて示す。性別で見ると、男性が183名、女性が210名

謝辞

本研究は、科学研究費（基盤研究（B）「科学的エビデンスが支える効果的で持続的な災害伝承」（研究代表者：佐藤翔輔）の助成を受けて実施された。データの整理・分析においては、東北大学災害科学国際研究所・技術補佐員、五十嵐和美氏から支援いただいた。

参考文献

- 1) 佐藤翔輔：「災害を伝える」活動の最新動向ー「災害かたりつぎ研究塾」の合宿活動をもとにしてー，口承文芸研究，No. 38, pp.42-51, 2015.3.
- 2) 佐藤翔輔：災害対応の知識共有に関する理論的考察：「語り」に着目して，地域安全学会梗概集，No. 42, pp. 165-168, 2018.5.
- 3) 中原淳，長岡健：ダイアログ 対話する組織，ダイヤモンド社，224pp.，2009.2.
- 4) ドナルド・ノーマン：人を賢くする道具ーソフト・テクノロジーの心理学（佐伯胖，八木大彦，嶋田敦夫，岡本 明，藤田克彦 訳），新曜社，416pp.，1996.12.
- 5) Thorndyke, P. W.: Cognitive structure in comprehension of narrative, Cognitive Psychology Vol.9, 1977.
- 6) Shank, R. C. and Abelson, R. P. : Script, plans, goals and understanding: An inquire into human knowledge structure, Eurbaum, 1977.
- 7) 佐藤翔輔，邑本俊亮，新国佳佑，今村文彦：震災体験の「語り」が生理・心理・記憶に及ぼす影響：語り部本人・弟子・映像・音声・テキストの違いに着目した実験的研究，地域安全学会論文集，No. 35, pp. 115-124, 2019.11.
- 8) 浅利満理子，中川政治，佐藤翔輔：宮城県における震災学習プログラムに関する現状分析ー東日本大震災と津波災害から 6 年間の震災伝承の特徴ー，地域安全学会論文集，No.31, pp. 77-85, 2017.11.
- 9) みらいサポート石巻：震災伝承ケーススタディ報告書，64 p.，2019.3.
- 10) 佐藤翔輔：東日本大震災の被災地における語り部・被災地ガイドの実態把握の試み，地域安全学会梗概集，No. 44, pp. 139-140, 2019.5.
- 11) 河北新報社：KD 河北新報データベース，<http://neokd.kahoku.co.jp/home.1>
- 12) 朝日新聞社：聞蔵 II ビジュアル for Libraries，<http://database.asahi.com/library2/>
- 13) 読売新聞社：ヨミダス歴史館，<https://database.yomiuri.co.jp/rekishikan/>
- 14) 毎日新聞社：毎索，<http://mainichi.jp/contents/edu/maisaku/>
- 15) 日本経済新聞社：日経テレコン 21，<http://telecom.nikkei.co.jp/>
- 16) 岩手日報：「津波の語り部」田畑ヨシさん 死去 宮古・田老出身，2018.3.1.
- 17) たとえば，毎日新聞：阪神大震災 25 年 語り部 6 割 70 歳以上 若い世代の育成急務 神戸大など調査，2019.12.25
- 18) TTT of HigashiMatsushima，<https://www.facebook.com/pg/TTTofHigashiMatsushima/posts/>
- 19) 3.11 メモリアルネットワーク：若者トーク，<https://311mn.org/wp/wp-content/uploads/2019/08/%E6%9C%80%E7%B5%82%E8%8B%A5%E8%80%85%E3%81%82%E3%82%86%E3%81%BF%E3%82%AB%E3%83%A9%E3%83%BCs.pdf>
- 20) 神戸新聞，姫路空襲の語り部活動 20 年 田路さんが 3 日最後の講演，2018.11.2.
- 21) 佐藤翔輔，岩崎雅宏：広島市における被爆体験伝承者・被爆体験証言者養成研修の実態把握：災害体験伝承者の養成を見据えて，地域安全学会梗概集，No. 46, pp. 61-64, 2020.5.